

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」		
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565-1 (電話) 0982-23-8309		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年8月28日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは高台の閑静な住宅街にあり、周りは豊かな緑に囲まれている。近くの道路は地域の人たちの散歩コースにもなっており、利用者との交流が自然に保たれている。ホールの広い窓からは人々の行き来、車の往来、電車の通過等を近くに感じることができる。居室も窓を開けると、木々の運ぶ風を肌で感じる事ができ、利用者はそれぞれ、穏やかに一日を過ごしており、寄り添うケアがなされている。管理者、職員は質の高いケアを目指し、日々話し合いを持っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議を活用し、地域住民との交流を積極的に持ったり、行事を通して、自治会とのつながりもできている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） A棟B棟、それぞれ全職員で取り組み、気づきやより良いケアのあり方について話し合いが持たれた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 現状報告やサービス評価について報告し、意見、アドバイスを頂いている。民生委員の橋渡しにより、地域住民や幼稚園とのかかわりが深く持てるようになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 来訪時や電話にて、報告や意見等を聞き取るように努めている。家族の懇談会でも意見、苦情等の聴き取りに努め、運営に生かす努力をしている。
重点項目④	幼稚園児との交流も頻繁に持たれ、地域の秋祭りのみこしがホームに立ち寄ってくれたり、冬場の「火の用心」で巡回する方もホームまで来てくれるようになった。また、ホームの行事を自治会の回覧板にて発信してもらっている。

【情報提供票より】（平成21年6月22日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年3月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤10人、非常勤6人、常勤換算6.7人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	2階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	27,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷金	有（ 円）	無	
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	120 円	昼食 240 円
	夕食	240 円	おやつ 66 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成21年6月22日現在）

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	5	要介護2	5
要介護3	7	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 93歳	最低 69歳	最高 96歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	田中医院、延岡保養園
---------	------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域との交流と人権尊重を柱とした事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念の復唱をし、共有するとともに実践に向け日々取り組み、ケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として、地域の人々との交流に努めている。幼稚園児による年6回の来訪や、地域の祭りのみこしが立ち寄ってくれたり、「火の用心」で巡回する方もホームまで来てくれる。また、ホームの行事を回覧板にて発信してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で取り組み、話し合う事により評価を生かし、具体的な改善項目を見出しサービスの向上に結びつけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されており、現状報告、サービス評価への取り組みについて報告し話し合っている。会議メンバーからは意見、アドバイスをもらい、そこでの意見をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に分からない事を尋ねたり、相談をしたりしている。福祉課からも来訪がある等、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時に近況報告をし、それぞれに合わせ電話連絡もしている。	○	金銭管理はきちんと行われ報告されているが、家族の確認印の徹底をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに、意見苦情等の聴き取りに努めており、それらを運営に反映させる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は離職者もなく、異動は必要最小限に抑える努力がされ、利用者のダメージを防ぐ配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的な研修に参加できるように配慮されており、希望によっては勤務シフトの組替え等の検討もされている。外部からの講師を招き、勉強会の計画もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のホームと常に情報交換をしている。グループホーム連絡協議会が主催する研修会参加の折、情報交換をしたり、ホームの見学をさせてもらえるようお願いしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の来訪により雰囲気を感じてもらおう等、納得した上でのサービス利用につなげるために、利用者、家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩途中でツワを採り、調理方法を教わったり、畑仕事を一緒にしながら草花の名前を教わる等、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の希望の把握に努め、意思を尊重し、家族、職員と相談しながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員から情報収集し、それを基にサービス担当者会議で意見交換しながら介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、毎月のフロア会議にて気づきを話し合い、状態変化に応じた見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じ、理美容、病院への送迎を行い、墓参りや、故郷近くの海岸等への外出支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医と相談しながら、適切な医療が受けられるように、専門医の受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームにおいて協力医、家族、管理者で重度化に向けた話し合いがもたれている。看取りについても話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに人格を尊重した言葉掛けや対応がされている。記録等の個人情報の管理もきちんとされている。	○	呼び掛け、言葉掛けに意識を持ち、更なる配慮をお願いしたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はそれぞれに自分のペースで過ごしており、希望に沿った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのできる範囲で、職員と共に準備、配膳、下膳などがされている。全員で同じ食事を楽しみながら取っており、利用者への介助もさりげなくされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日、時間は決まっているものの、希望や必要に応じて柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活習慣が継続でき、張りや満足が得られるように、個人に合った声かけを行い、楽しみごと、気晴らしの支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、買物、車を使った野外活動で気分転換を図る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2月に3時間、利用者が行方不明になったことと、帰宅願望の強い活動力のある方がおられることから現在施錠している。	○	施錠の弊害は理解しており、常に話し合いが持たれている。早急に鍵をかけない取り組みをされることを望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成もされ、昼夜想定訓練もされている。	○	自主的な訓練を増やすとともに、消防団や地域の協力による訓練の実施を望みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの機能に合わせた食事形態になっている。栄養がバランス良くとれるように献立を作成し、水分摂取にも気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、生活感のあるくつろいだ空間となっている。自然の光や音量も不快なものではなく、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの好みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。